

Gpress せたがや

http://www.ryo-iku.jp

子どもたちの育ちと心の安定

今号では学校生活での子どもたちについて、子どもの側の視点に立って考えてみました。
発達障害のある子どもたちには、心が不安定になってしまう原因がいろいろあります。その
中から代表的なものをいくつか挙げて、シリーズで考えていきたいと思います。第1回は感覚
過敏について考えていきます。

第1回 感覚過敏について

遠くからかすかに聞こえる救急車のサイレンや飛行機の音にすぐ気付く、野菜を炒める音に怖がって泣く、歯磨きをいやがる、シャワーをいやがる、服を着せても脱いでしまう、光をとてまぶしがる、なんでも臭いをかぐ、食べられるものが限られている、などなど。これらは感覚過敏といわれ、発達障害のお子さんにはたいていこのようなもののどれかがみられます。このために、生活習慣が身につかなかったり、人のたくさん集まるような場所に行けなかったりなど、いろいろな不自由さを抱えてしまいます。しかし、このことはなかなかわかってもらえず、むしろ周囲の人から、わがまま、こわがり、おかげさなどと思われてしまいがちです。

例えば、舌触り、味、においなどに過敏に反応してしまって、食べることが苦痛であるのにもかかわらず、偏食は悪であるという考えのもと、食べないことを許してもらえなかったりするのです。食事はおいしく楽しくなければなりません。食べられるものを食べさせてあげて、お子さんとの間にくつろいだ楽しい時間を持つほうが大切です。話しかけるときは優しく、静かに、ゆっくりと話したほうが耳に入りやすいです。好みの肌触りの下着を着せてあげたり、タグを取ってあげたりすることも必要なことがあります。こうして、お子さんが人の営みの中に入って来られるようにこちらが工夫することが大切なのです。

(世田谷区発達障害相談・療育センター 相談・療育主幹 喜多 民子)

世田谷区発達障害 相談・療育センター って どんどころ？

世田谷区在住の発達障害のある方、またはその疑いのある方、その家族、関係者を対象としています。また、世田谷区の発達障害に対する支援を推進するための中核的な拠点施設として関係機関への支援や、広く区民の皆様に、発達障害について理解してもらうための活動をしています。

シリーズ

教えて発達障害のこと

親と子が前向きに生きていくために

発達障害について、従来の医学的モデルによる考えではなく、何が生活の障壁になっているのか、何が本人にとって不安や恐れや怒りになるのかという考え方も必要です。げんきでも、本人の立場に立った支援を心がけています。

このシリーズでは、本人の立場から社会での生活をとらえ、安心して生活していくための支援のあり方について考えていきたいと思っています。

(げんきスタッフによる座談会から再構成しました。)
困った行動にみえても、当人には必ずそつする理由があります。周囲が「これもありかな」と受け入れることで、みんながより生きやすい社会になっていくはずですよ。

Aさん(母親)

子どもがお店に並んでいる商品が大好きで、触りたがりその場を離れさせない。本人はお店の人が困るということを見分けていないので、「お店の物は触らないで見るだけにしよう。」と伝えていますが、ルールの中であれば興味のあること、好きなことをするのはいいのかなとも思います。

ーお母さん自身も葛藤があるんですね。

S(支援者) 特定のお店で事前に許可をもらい、並んでいる商品を好きだけ見せてもらっている方もいます。その経験が活かされ、大人になり陳列の仕事になった方もいます。

T(支援者)

子どもの立場に立って、子どもが何に気になるのか、何でそつしないではいけないのか、という所に寄り添うことが大切です。子どももそのことに付き合っている「ここ

が終わったからおしまいね。」など声をかける。親子でそんなやり取りをしていると周りの人から見ても、お母さんが一生懸命子育てしていることが伝わるのかもしれない。それで、周りの人の理解を得られる良い機会になるのだと思います。

ー親子でのやり取りを通して、親子関係が変わってきたと思うことはありますか？

Bさん(父親)

うちの子は、昔は食器を持って行くとつと、その声掛けに怒って食器を投げて大変でした。でも、親として食器の片付けはしてほしいと長い間、何度も何度も同じように伝え、今は片付けてくれるようになりました。

S お子さんには、お父さんが付いて行って「お皿を流しまで持ってきて」「食器を持って流しまで歩いていこう。」と具体的に伝えるのが分かり易いと思います。長い間の親子関係でお父さんの言う事に対して上手に伝えるようになったんですね。そういう関係は本当に素晴らしいです。

T 自閉症や発達障害の方は百年間の成長というか、ゆっくり成長していいんだよと見守ることが大切です。子育てのまっ最中には保護者の方自身、余裕が無く、子どもの目線に立てないこともあります。周りの人たちがそんな保護者の気持ちに寄り添い、見守れる環境になれば子育ても楽しくなりますね。

世田谷区発達障害相談・療育センター

開所日時

月～土曜日(祝日及び年末年始を除く)
午前9時～午後6時

利用方法

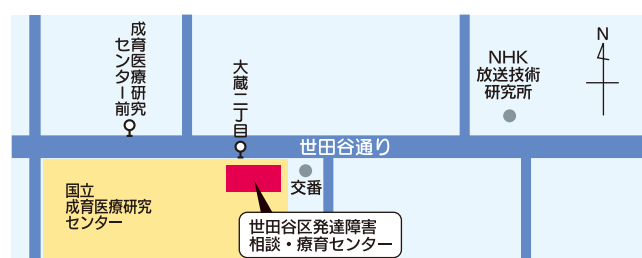
利用は予約制です。利用を希望される方は、直接『世田谷区発達障害相談・療育センター“げんき”』へお電話にてお申し込みください。

〒157-0074 世田谷区大蔵 2-10-18
大蔵二丁目複合型子ども支援センター 2・3階
TEL 03-5727-2235 (代表)
03-5727-2236 (相談専用)
FAX 03-5727-2238
URL <http://www.ryo-iku.jp>

編集後記

「Gプレスを見て」とセンターにお問い合わせくださることも多くなり、そのような皆様の声に励まされています。世田谷区で長年、自閉症を中心とする発達障害の人たちの支援に携わってきた法人(社会福祉法人嬉泉)の本人の立場に立った支援の経験を誌面に活かして行きたいと考えています。

アクセス



「成育医療研究センター前」「大蔵二丁目」バス停下車すぐ

- 東急バス・小田急バス
渋 24 成城学園前駅南口 ↔ 渋谷駅
- 東急バス
都立 01 成城学園前駅 ↔ 都立大学駅北口
等 12 成城学園前駅 ↔ 等々力操車場
用 06 成城学園前駅 ↔ 用賀駅
- 小田急バス
渋 26 調布駅南口 ↔ 渋谷駅
- 東急コーチ
玉 31・32 二子玉川駅 ↔ 成育医療研究センター前

※駐車場はありません。

業務受託

社会福祉法人 嬉泉

〒156-0055 世田谷区船橋 1-30-9
TEL 03-3426-2323 FAX 03-3706-7242
URL <http://www.kisenfukushi.com>

いま学校生活の中で ～子どもの側の視点に立った支援を～

勉強ができないわけではないのに…

A子さんは小学校3年生です。



担任のS先生は…

授業中ぼんやりしていることが多くて、授業時間内で決められた課題が終わらない。勉強ができないわけではないのに。

授業で発表したり、係の活動もちゃんとこなしているから、こちらの言っていることはよくわかっているはず。やればできるのになぜ…？

A子さんは…

いろんな音が聞こえてきて先生の言っている事がわからないの。廊下からいろいろな音がするし、みんなが動くと、それがとても気になって、いろいろなことが思い浮かんで、何をしなきゃいけないか忘れちゃうことも…。



大切な話をする前には、先生に注目を向けるための声かけの工夫を行うことや、A子さんに対して個別的な声かけや合図(机を軽くたたく、肩にふれるなど)を行うことで、注意を促す働きかけを行いました。

背景について 教室の中は、廊下から聞こえてくる物音や、周囲の子どもの動きや声等、たくさんの刺激があります。このようなたくさんの刺激の中から先生が話している事に気付いて注意を向けたり、集中し続けることが難しいことがあります。また、何か気になることがあると、そのことについて色々な考えが思い浮かび、〈今ここ〉から注意が逸れてしまうこともあるようです。

子どもたちの行動が、先生や保護者、また友だちから〈不真面目〉〈だらしない〉〈乱暴〉といったフレーズで捉えられがちな面があります。けれども、これらには頑張りや努力によって解決できない背景がある場合があります。

〈注意の集中や配分〉〈見通し〉〈コミュニケーション〉などに難しさを抱えている子どもによっては、行動が日常生活の中での生活のしづらさとして表れている場合があり、「失敗した」「うまくできなかった」「叱られた」というマイナスの体験が増えた結果、自信をなくすことになりがちです。

子どもの側の視点に立ち、子どもの状況や、その時に感じている気持ちを察していくことが、理解の一步となります。そしてどうすれば子どもたちが過ごしやすいのかを一緒に考え、具体的な方法を教えていくことを通して、生活における振る舞い方や、より過ごしやすい手段を身につけていけるようサポートしていくことが大切です。

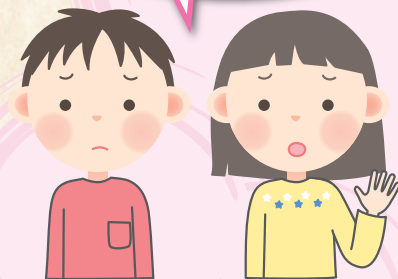
やめてって言ってもしつこいのは何で？

C男くんは小学校4年生です。

お友だちは…

面白いヤツなんだけど。

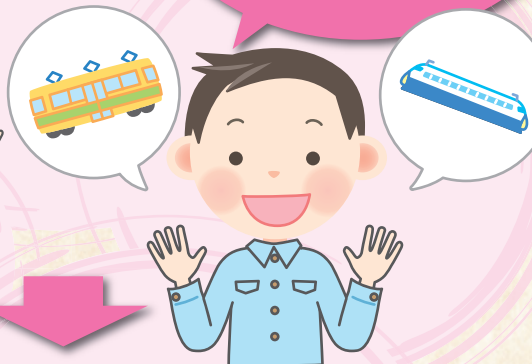
でも、追いかけ合ったりふざけてるうちに友だちを倒したり、「やめて」と言ってもしつこかったり、どうしてなんだろう…。



C男くんは…

お友だちと一緒に遊んだり、面白いことしたりするのが大好きなんだ。お友だちも楽しんでるよね。

僕の好きな鉄道のことを話しているのに、友だちがなぜか離れてしまうんだ…。



つい叱って対応してしまいがちですが、本人は気付いていない、わかっていないという視点で対応していくことが大切です。行動のコントロールが難しいことも考え、追いかけ合う以外のドッジボールなどルールの明確な遊びを提案してみました。また、彼の親しい友だちに、C男くんは鉄道のことを共有してもらいたい、聞いて欲しい気持ちが強いことを理解してもらおう伝えました。C男くんには「やめて」と言われたら、言うことをストップする、また3回言われたらやめることを先生との約束にしました。

背景について 友だちの表情やしぐさから、相手はどう感じているかを理解することや、場面や状況から、その場に応じた振る舞いをするために、苦手さがあるため、C男くんのように一方的にみえる行動をとってしまうことがあります。また、行動をコントロールしていく力が弱いために、力を加減することが難しいこともあります。

整理整頓ができないのはなぜ？

B男くんは小学校2年生です。

担任のT先生は…

机の上には前の授業の物が出しっぱなし、机の中は持ち帰らなければいけない配布物がぐちゃぐちゃに突っ込んだまま。次の授業の準備も言ってもできません。落し物も多いし、すぐなくすし。連絡のプリントがなくてお母さんも困っているようですが…。



でも、B男くんは…

「片付け」「きちんと」と言われても、なにをするのかわからないんだ。どこに置くのかなあ。いつすればいいのかわかんないし。消しゴムや定規もいつもどっかいっちゃう。

お便りやプリントも持って帰るのを忘れていつも先生に怒られてばかりでいやなだけ忘れちゃう…。



チャイム後に、B男くん individually 「片付け」の声かけをし、今やるべきことへの気付きを促すことから始めました。また、次の授業で必要な用具を黒板に書き、自分で認識し用意できるようにしました。授業中に机の上に置く物は必要最低限にし、消しゴムや定規がなくならないようにしました。プリントは持ち帰り用の袋を作り、その中へ入れて持ち帰るようにしました。また、帰りの会の場を利用して、持ち帰る物について、クラス全体で確認する場をつくりました。

背景について 前の授業の道具を片付けて、次の授業の準備をするといった活動の手順をふむことが苦手なことがあります。また、何をどのように整理していけばよいか、机上のどこに置けば落とさなくてすむかなど、空間をとらえることや、見通しをもって考えることが苦手であることが考えられます。

事例 学校生活の不安をみんなが共有

学校で次は何をすることがかわからないと不安に感じているD子さん。特に体育館では体育以外にもいろいろな行事、その練習など行くとたびに違うことをしなければいけないため、「次は体育館」と言われると不安でした。

でも、好きなハンカチを「お守り」として持っていれば落ち着けることがわかりました。そこで体育館への移動の際は、いつ何をすることが早めに予定を伝え、「お守り」を持って行っていいことにすると安心して移動が可能になりました。

また、学芸会の時、他の不安を感じる子どもたちも各自「お守り」を持ってくることで、安心して過ごすことができ、無事出番を終えることができました。みんなもD子さんの不安を理解してあげることができるようになりました。